



大阪錦画日々新聞紙56号 文庫10-8068-41

と相か江を鳥の漁師松本佐登が娘かとうの行形村
 木田守次良友同村寅治が味人々暗礼
 を海を不日親類より寅治の家へ
 参り母房お糸お孫の自昇と思思

花嫁が大きなお尻を
 是のく指すそのお玉お
 めく出来ませうと口
 親類内へ申さく人お
 突て死にたるお安次良の
 何とう申たお違おし
 多れお糸お孫の
 死にたる是をたくり
 落命せりマ、尻ッで
 よろ尻お締りのお

まろとお糸の黙止て
 何うの お土産お裏の
 うら出次お云へ嫁の
 笑まらぐ残念と書お
 大おごるお寅治が女房
 二面當てがたら娘の首切
 秋が言とたら死お
 安次良へ寅治への三言訣と
 三人の命を垂るとい笑ふ
 嫁さん方お申と
 讀り百三十号ニ出

居たかお
 此や加子も
 赤面してお帰
 死をう咽喉を
 お常にお口
 書置をへは
 たりと又咽喉つて
 身を投げ終
 てよら泣て
 狸昇誌

忠次
 作
 百三十号

忠次
 作

大阪錦画日々新聞紙56号 文庫10-8068-41

